

3. 東北地方の目指すべき将来像

(1) 東北地方の将来像

東北ブロックの社会資本の重点整備方針を踏まえ、東北地方の将来像は以下の通りである。

東北地方の将来像

東北ブロックの持つ優れたポテンシャルを活かしながら、人・物・情報の国内外との交流、連携を深め、低炭素社会の構築などの新たな時代の潮流に対応・貢献できる多様で自立した圏域を形成していく。

① 活力

圏域内外の主要都市や生産拠点等を結ぶ交通・情報通信ネットワークの構築、及び安定的な水資源の確保を図る。これにより、広域的な連携による、競争力を持つ産業群の形成、及びマーケットへのアクセス改善による、多様な地域資源を活用した地域内発型産業の創出・振興を支援する。また、地球温暖化や国際化に対応しつつ、安全で安心な食料を安定して供給できる持続可能な農林水産業の振興に寄与する。加えて、二地域居住^{注1)}やIターン^{注2)}などの新たな価値観やライフスタイル^{注3)}に対応した交流人口の拡大を通じて、若者から高齢者まで生き甲斐をもって働ける産業構造の構築を目指す。

このような地域間の連携交流を促進することにより自立的・持続的な成長を実現する圏域を創り上げる。

日本海地域と太平洋地域の連携を強化し、東アジア・ロシアや北米等との世界に開かれた国内外をネットワークする「環日本海・環太平洋ゲートウェイ」を開き、農作物、人材、技術力等、東北圏の地域資源を十分に活用し、沿岸部・内陸部が一体となった、国際競争力のある産業が集積する圏域を創り上げる。

② 安全

既存社会資本ストックを有効活用しながら、地震・津波、風水害、土砂災害、豪雪などの自然災害への備えを充実し、社会経済活動を支える圏域を創り上げる。

③ 暮らし

子供から高齢者の各世代の人々が、もてる力を十分に発揮し、いきいきと暮らしていくためのユニバーサル社会^{注4)}を実現するとともに、地域医療の支援、生活圏内の公共交通等の確保及びコンパクトシティの形成等により、都市と農山漁村が共生し、温もりある人に優しい圏域を創り上げる。

④ 環境

地域固有の伝統・文化や美しい国土を適切に保全し、後世に継承するとともに、その自然・環境・技術を活かし循環型社会を基礎においた低炭素社会を構築するために、豊かな自然環境を再生し、自然の恵みを有効に活用した地球温暖化防止に貢献する環境先進圏域を創り上げる。

注1) 二地域居住:都市住民が都市と農山漁村に滞在拠点を持ち、双方を仕事や余暇で行き来しながら、田舎でのゆとりある生活を楽しむ新しい居住スタイル。

注2) Iターン:出身地以外の地方に移住する形態。

注3) ライフスタイル:生活の様式や営み方、また人生観、価値観、習慣などを含めた個人の生き方。

注4) ユニバーサル社会:年齢、性別、障害、文化などの違いにかかわらずだれもが地域社会の一員として支え合うなかで安心して暮らし、一人ひとりが持てる力を発揮して元気に活動できる社会。

(2) 東北地方の道路整備・管理のあり方

「東北のみちを考える懇談会」からの提言や、各県、市町村から頂いたご意見、ご提案、新たな中期計画等を踏まえて、以下の5つの基本方針から今後の道路整備を進める。



